

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.29をお届けいたします。

facebook



3月のTOPICS

■ 高血圧患者における内皮機能、動脈硬化と無症候性臓器障害の各種マーカーとの関連 —FMD-Jにおける前向き縦断研究—

高血圧患者における心血管疾患イベントの予防には、動脈硬化および無症候性臓器障害の進行の予防が大変重要であり、内皮機能障害はその進行の一因と考えられています。そこで今回は、国内におけるFMD多施設共同研究「FMD-J study」から、関連する興味深い報告がございましたのでご紹介いたします。

高血圧治療中の患者674名に対し、FMD、baPWV、頸動脈IMT(cIMT)、腎機能(eGFR、尿中微量アルブミン)の各指標をbaseline時、1.5年後、3年後の3回に分け測定。

内皮機能障害と、動脈硬化および無症候性臓器障害の進展との関連性を検討するため、baseline時におけるFMD値およびbaPWV値を3群(低値、中間値、高値)に分け、試験期間中のbaPWV、FMD、cIMT、eGFR、尿中微量アルブミンの変化との関連を分析した。

その結果、試験期間中におけるbaPWVは、baseline時のFMD高値と比較して、FMD低値でより高値に変化した。試験期間中におけるcIMTは、baseline時のbaPWV高値と比較して、baPWV低値でより変化が小さかった。多変量解析の結果、baseline時のFMD値は3年後のbaPWV値と相関($\beta = -0.07, p = 0.01$)し、baseline時のbaPWV値は3年後のFMD値とは相関せず、CIMT値と相関($\beta = 0.06, p = 0.04$)した。また、eGFRおよび微量アルブミン尿とは有意な関連は認められなかった。

引用文献：International Journal of Cardiology 253 (2018) 161-166

本研究では、FMDが低値で内皮機能が障害されているほど、baPWVは高値となり動脈硬化が進展し易く、進展した動脈硬化はアテローム性動脈硬化症の進展と密接に関連していると報告されています。

また、FMDが高値の患者においては、試験期間中のbaPWVが有意に減少している結果も踏まえて、動脈硬化の進行を予防するためには、内皮機能を正常に保つこと、および内皮機能障害の改善が重要であると報告されています。

■ 3月の学会展示のご案内

第8回 日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会期：3月17日(土)・18日(日)
会場：仙台国際センター 展示棟

第82回 日本循環器学会学術集会

会期：3月23日(金)～25日(日)
会場：大阪国際会議場 3階 イベントホール